

会報 わかくさの風 No.7

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

強くしなやかな社会福祉法人を目指して 人財確保・育成&組織のあり方委員会報告

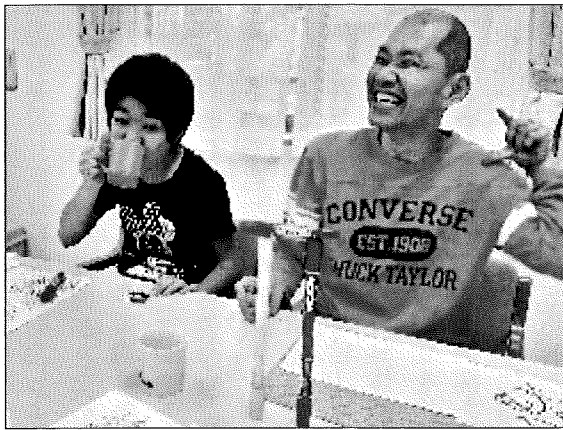
障害者福祉は大きく動いている。障害のある人々(以下「障害者」という。)も「あたり前の生活」が保障される時代には、まだまだの感が強い。障害者基本法の趣旨をそれぞれの福祉の現場で具現化し、実践を積み上げ、科学化、普遍化しなければならないと痛感している。

法人は社会福祉法人化して11年目、人としての基本的ニーズである「働くこと」「暮らすこと」の願いを充実するために、事業を拡大してきた。少なからず、ニーズに添えてきたという自負がある。しかし、事業の拡大はニーズを新たに発見することにもつながり、今後、これらのニーズにどう応えていくかが法人に強く要請されている課題でもある。

障害福祉サービス事業は、既に市場経済化され、競争社会に入っている。「適切かつより良い質のサービス、支援がないところは淘汰される」「障害者理解の視点、

支援さらにミッションが不明確な法人は脆弱化していく」と指摘されている。

このような環境の中で、法人のミッションを実現しながら、競争社会に生き残る体質を強化し、職員の安定的雇用を確保しつつ、財務体質を強化しなければならぬ。所謂高いレベルの「経営品質」をどう確保していくかが問われている。



一方、急速な事業展開に伴い、法人組織などに幾つか改善すべきことが表出してきた。これらの状況を踏まえ、「人財確保・育成&組織のあり方委員会」を立ち上げ、6回の委員会を開催し、この度、15ページにわたる報告書をまとめあげることができた。

リーダー層も含め職員一人ひとりが、「法人・事業所に何かをしてもらう」ということから「どのようなにしたいか」「職員一人ひとりが職員集団の形成者の一人」であることを確認し合うとともに、既に実施済みの給与改定をはじめ、新たにキャリアアップ制度の導入、研修体系の再構築などを踏まえたものとなっている。

各事業所及び職員集団の活性化を基本に、報告書の提案事項を着実に積み上げ、「強くそしてしなやかな法人を目指したい」と考えている。

社会福祉法人 戸田わかくさ会

統括施設長 竹嶋 紘

「わかば」は、社会福祉法人の歩みとともに開設11年目を迎えました。



2号連続特集 10年の節目に 活動を振り返る

前号の就労関係事業所以外の事業、生活支援、ホーム、就業・生活支援の各事業のとりくみについてお伝えします。

当初は埼玉県からの委託事業としてスタートしましたが、その後、事業の実施主体の変更により、戸田市からの委託事業となり、「今」につながっています。開所当時の相談は、「サービスを使いたい」という比較的、シンプルな相談が多くありました。

近年のご相談では障害があることによる「生きづらさ」に伴うこと悩みが数多く寄せられています。

「生活が苦しい」、「働きたい」、「皆と一緒に楽しみたい」、「好きなシヨッピングをしたい、映画を見たい」、「介護が大変!」、「病気がつらい」、「医療にかかりたいが・通院先は」、「手帳を取得したい」、「福祉サービスを使いたい」、「息子(娘)が落ち着かない」、「親なき後が心配」などいろいろな悩みや課題を抱えることが少なくありません。相談内容(主訴)は単一ではなく、複数の課題を抱えている方の相談が多くなっています。しかも深刻かつ解決の難しさを抱えている方が増えているという実感をもっています。

このような時、あなたはどのように、誰に相談しますか?

「どうにもならない!」とひとり抱え込んでしまう事はないでしょうか?

わかばは、決して一人で抱えこまないようにして欲しいと願っています。そして、「障害があるための生きづらさ」をご本人、家族などと一緒に解決できるようにお手伝いします。また、福祉サービス活用もその必要を含めて具体的に検討します。更に複数の課題を抱えている場合は、他の関係機関とも協力しあい解決できるようにお手伝いします。

ご相談は「精神障害者」「知的障害者」「身体障害者」「発達障害者」「難病(法に定める疾病)」などの方が対象ですが、障害がある

みなみ物語

障害者就業・生活支援センター

◆広域的取り組み

戸田わかかくさ会の事業所は主に戸田市を中心とした事業展開をしています。みなみは広域(対象圏域：戸田市、川口市、蕨市)を対象とした事業になります。平成

**気軽に
ご相談ください!**
私たちはあなたとの
出会いを大切に、
一緒に歩みます!

か不明の場合でも相談は可能です。相談に遠慮は禁物です。

相談件数は平成18年度は延べで2172件でしたが、平成26年度は13330件と大幅に伸びております。困ったことがありましたら、お気軽にご相談ください。

23年4月にみなみが開所されましたが、当初は市外の関係機関との連携が殆どありませんでした。行政、福祉機関の皆様にも暖かく迎えていただき、また、相談者を通じて関係性を積み重ね、現在に

至ることができました。

◆関係機関との連携

開所当初、対象圏域の各市には実績がある市障害者就労支援センターが既に設置されていました。

そこで、圏域内の就労支援の補

完的役割を担うことを中心に事業

を開始しました。県南の市障害者

就労支援センター(戸田市、川口

市、蕨市、さいたま市、CSA)

と共に県南地域障害者就労支援セ

ンター情報交換会(年4回)の事

務局や埼玉県障害者雇用サポート

センター等と一緒に企業開拓を行っ

てきました。また、戸田市や川口

市の障害者自立支援協議会や部会

に声をかけていただき、川口市の

就労移行プロジェクトチーム(川

口市の自立支援協議会の作業部会)

では毎年100名近い参加を招きシン



ポジムを開催してきました。川口市では市障害者就労支援センターと連携して、川口市在住の特別支学校卒業生の支援をみなみが行うなど、地域の実情に合わせて支援の分担なども行ってきました。

◆資源の開発

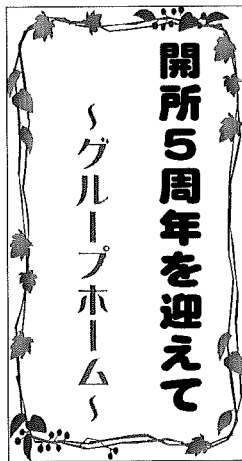
また、定着支援としてサロン活動や交流スペースなど、戸田市在住者以外にも圏域内から参加をいただいています。地域によっては当事者同士の集まりの場がない所や、あったとしても障害の程度の違いや、障害種別の違いもあり参加を躊躇する方が多いようです。

◆繋がりと広がり

こうした取り組みは、障害者就業・生活支援センターが広域的事業だからこそできることだと思えます。更に戸田市内では法人内の戸田市障害者就労支援センターと連携した取り組みも可能です。

◆これからの強みを活かして

それぞれの地域の状況やニーズに応えていきたいと考えます。広域事業だからできるネットワークを活かし、利用者同士のつながりや、関係機関とのつながりを深めてさらに広げていきたいと思えます。



グリーングラスでは、下笹目

が開所して5年を過ぎ、この間に上戸田、第二上戸田も開所し、現在3ホーム計17名の入居者の方々が生活しています。

開所当時は、戸田市内初の障害

者のグループホーム(当時はケアホーム)として10名の入居者が共同生活を始めました。支える支援員側も、初めてなことが多く試行錯誤をしながら、少しでも安心して過ごせるように支援を行ってきました。

グループホームでは、入居者の

一人ひとりに必要な支援を行います。入浴場面に於いても、着替える衣類の準備が一人で出来る方には声かけのみを行い、洗身の必要な方には入浴介助を行っています。これは入居者皆に、同じ支援を提供するのではなく、個別に必要な支援を提供し、自分で出来ること

は自分で行ってもらうことが、グループホームでの生活だと考えています。『ホームに入ると全部やってもらえるんですよね』と、ご家族からご質問を頂くことがあります。しかし実際は、家庭での生活よりも自分自身で取り組んで貰うことが多いと思われまます。現に、入居者のご家族から『今までやったことのない、皿洗いや洗濯物たたみ等をやる様になりました』と話を頂きます。

障害が重いと周りの人たちは、

どうしても『何も出来ない』だから『やっつけてあげることが福祉だ』と捉えがちですが、ホーム支援員は『何が出来るか』それなら『ここまで自分でお願ひね』と考えるようにしています。支援があっても出来れば、それは『自立(律)』と考えているからです。

5歳を迎えたグループホームで

すが、当然生活している入居者も歳を重ね、成長しています。成長の幅は一人ひとり違います。その幅に合わせた支援を提供出来るように、今後も支援の充実を図りたいと思えます。

利用者の取り組んでいる作業の歴史(ルーツ)を辿る 缶作業 〜わかくさ〜

わかくさで注力している缶作業。地域の方からご協力をいただき回収した缶を洗浄、圧縮して金属回収業者にて換金することにより、昨年度は約70万円を売り上げ、利用者の工賃となりました。

この缶作業は、わかくさの前身、わかくさ生活実習所が埼京線の高架下に設立された当初(平成2年)から現在まで継続して取組まれています。

当時、施設を運営していた親の会が、地域の方々から「車椅子と交換できるよ」とドリンクの缶のプルトップを集めていました。その際、プルトップだけでなくアルミ缶自体が換金できることを知り、親の会の活動とは別に、利用者の仕事にしたのがきっかけです。



■缶作業が目指したこと

缶作業を始めるにあたって2つの目標がありました。

1つは「地域の方に缶の回収作業を通じてわかくさの活動を知ってもらうこと」です。設立当時、戸田市には知的障害のある方が働く施設は少なく、市民の方に知られていませんでした。そのため缶の回収を通じて市民とふれあい、サポーターをたくさん増やしていくと考えました。現在、50箇所事業所や市民の方々にご協力をいただき、26年度約6.5tもの缶を回収するまでになりました。

2つめは「障害の重い方にも働く機会を保障すること」です。「缶を潰す」という作業工程を機械や自助具を用いることで仕事に

主体的に取り組めます。また、わかくさの室内作業が苦手な方が、回収作業には積極的に参加し、協力者に元気に挨拶する様子が見られるなど、やりがいにつながっています。一人ひとりに合った仕事の関わり方を考えていく中で「缶作業」は多くの利用者の仕事となったのです。



■より工賃をあげるために…

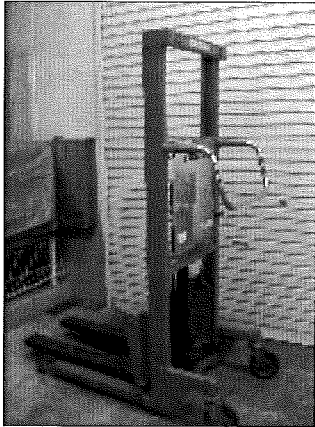
わかくさが社会福祉法人の運営へと移行した際に「障害者の『働くこと』と『暮らすこと』を支えていく」という方針の中で、工賃支給額の向上を図っていきたくと考えました。

しかし、缶つぶしは手動や電動の機械で1缶ずつ缶を潰していくものがほとんどで、非常に効率が

悪く、潰した缶をビニール袋に詰めて作業建物の屋根上に保管しておき、2か月に1度、業者のトラックが来て、屋根上の10kg程の缶の袋を降ろして納品するなど重労働となっていました。それでも重量の割にかさばるため、大型トラックに満載でも2tにならない上に運搬費用もかさみ、結果として引き取り価格も低くなるため、利用者に月平均3000円程度しか工賃を支給できていない状況でした。

そこで効率化を図るために、平成20年、県の補助金を得て、アルミ・スチール分別機能付きベルトコンベアと缶をブロック状に圧縮できる油圧式プレス機を導入し





しかし課題も出てきました。このプレス機は1時間に150kgの缶の圧縮が可能です。プレス機をフル稼働させるには大量の缶が必要となり、現在においても機械の能力を使いきれっていない「もったいない」状況が続いています。

また、さらには自分たちで納品できるような軽トラックや手動式のフォークリフトを購入しました。これらにより缶をブロック状に圧縮し自分たちで納品を行うことで取引価格も高くなり、売り上げの向上につながりました。また、納品の際、その場での現金を受け取るため、「仕事をすす↓お金をもらおう」という社会のしくみを直接経験することができ、仕事への意欲向上にもつながりました。

缶作業は、わかくさ利用者の工賃アップをしていくために、さらなる成長を図る必要があります。具体的にはより地域の方との関係づくりをしながら、回収先を拡大していくことです。今年度に入り、数棟のマンションからご協力を頂けることになりました。その際、ただ缶を頂くだけでなく、わかくさの活動を知っていただくためチラシを配布しています。「働くこと」と「障害のある方が暮らしやすい地域づくり」をマッチングさせることを大切にしていきたいと考えています。

■今後の展望



また、徒歩での回収も視野に入れ、わかくさ周辺の方々への回収拡大を図ることで、より多くの利用者の方が施設の外に出て活動する機会を増やしたいと考えています。

缶作業の作業場は屋外ということもあり、うだるような暑い日も凍えるような寒い日も作業を行っています。虫が来ないように作業場を清潔にしなければなりませんし、ブロックになった重い缶を運ぶこともあり、重労働です。しかし、やりがいを持って取り組む利用者の真剣な表情や仕事が終わった後のほっこりした笑顔をみることで、缶作業を利用者とともに大きくしていきたいと思えます。



**缶回収にご協力を
よろしくお願ひします!!**

しよくいんの風

戸田わかくさ会、各事業所に所属する、福祉系大学の新卒、子育てをしながら働くママさんからの声、分野や業種の異なる仕事からの職員…。様々な立場からの職員の声を集めてみました

福祉系新卒

今年の春、大学の福祉学科を卒業し、戸田わかくさ会に入職いたしました。現在はわかくさで、主に生活介護のグループ担当の生活支援員として勤めています。学生時代は障害分野に多く関わってきたわけはありませんでした。仲間と畑作業をしたり、小学生のキャンプに関わり、就職は児童分

野か、農業か・・・など考えていたのです。なぜ障害分野に進んだのか改めて思い返したのは、新任職員という立場で参加した戸田わかくさ会就職説明会でした。

きっかけは、大学3年生で受けた、障害者支援施設での3週間実習です。今まで関わりが無かったからこそ、この際3週間みっちり関わってみようと思ひ障害分野に希望を出しました。実際に関わってみると、どうしたらいいのか悩むことも多く、相手の方のことを「わかりたい」と、強く、もどかしく思った実習でした。

そして、もっと向き合ってみたいというのが素直な気持ちです。まだまだ至らない自分がこのようない気持ちで踏み込んで良いのか未だ考え悩むこともあります。ですが今わかくさで利用者さんのまっ

すぐな笑顔、嬉しそうな様子に、私も嬉しい気持ちになっています。「わかりたい」の気持ちを失わずに、これからも努めていきます。

わかくさ 太田 朱里

子育てしながら

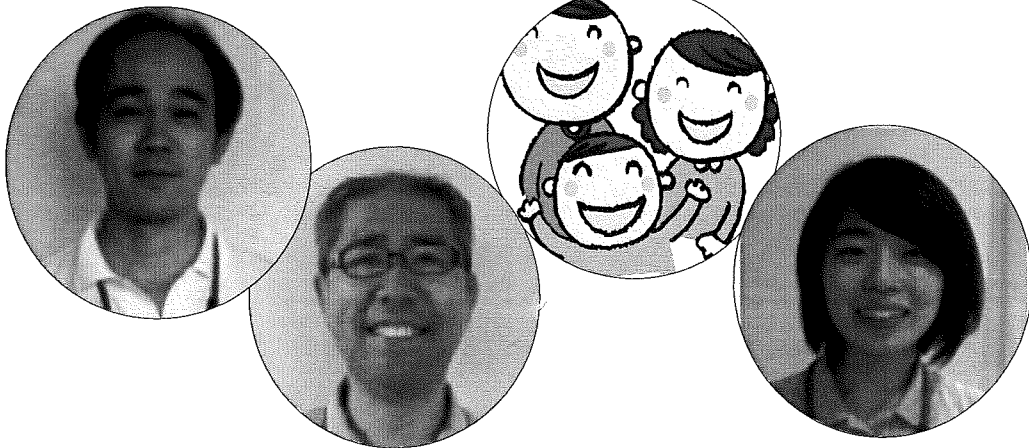
私は現在、「福祉作業所かがやき 就労移行」に所属しています。仕事内容としては、利用者の就職に至るまでの企業見学や実習のお手伝いを主に担当しています。

「仕事が楽しい」と思う時は、利用者が訓練を日々行なっていく中で成長していく過程や、就職が決まった時の笑顔が見られた時、また共に協力してきた職員と喜びを分かち合えた時です。

「かがやき」の就労移行の中だけでは、支援の方向性について悩むこともあります。法人内に「就業・生活支援センターみなみ」や「就労支援センター」があることで、就職だけでなく、支援の方法や課題の対処法について助言してもらえ、かがやきの強みとなっています。

今後も就労移行の職員と共に、関係機関と連携し、利用者の方々の就職へのお手伝いが少しでも出来ればと思います。

かがやき 石野 恵子



印刷業界から

数ヶ月を振り返って

これまで福祉の仕事とは無縁の業界で生きてきました。人と接するよりは、パソコンの画面とにらめっこの毎日でした。

福祉の仕事に興味をもったきっかけは家族が介護のサービスを受けることになり、ヘルパーさんの仕事ぶりを見たことでした。

1年ほど自分の将来についていろいろと迷いましたが、新しい業界に入るには年齢的にもギリギリかなと思ひ、転職を決めました。

戸田わかくさ会を知ったのは、私がついてきた職業訓練校の就職説明会がきっかけです。高齢者の介護サービスを就職先として考えていた私にとって、障害者施設で働くというのは自分の中にはなかった新しい選択肢となりました。

4月に非常勤として、6月には嘱託職員として採用され、新しい業界で働く機会をいただきました。現在はグループホームのグリーングラスで世話人をしています。

この仕事に就いて感じることですが、利用者の皆の純粋さや素直さに自分自身、気づかされる機会が多く、人として学ばせてもらう機会を得ています。仕事としては利用者皆、日中に作業所へ行き、夕方にはホームへ帰宅してきます。毎日、作業所へ行く時には元気に通ってもらえるよう、ホームでの暮らしでは体調面や精神面をプラスに整えられるよう心掛けながらサポートしています。

やりがいとしては、利用者の皆の一人一人の笑顔が見られることでしょうか。一緒になって笑顔になっていく自分がいます。

難しいと感じるのは、一人ひとりの障害を理解することです。十人十色という表現が当てはまるほど、一人として同じということはないなと思います。利用者の行動を起こすきっかけとなるポイントを探すのは、一朝一夕にはできないなと感じ、戸惑うこともしばしばです。異国の文化を知るように、利用者一人一人の世界を少しでも知れるよう、理解に努めていきたくて考えています。

いろいろなお話が初めてでわか

らないことだらけです。周囲に迷惑をおかけすることも多々ありますが、1日も早く仕事を覚え、利用者及び職員の皆さんのお役に立てるようになりたいと思っています。

グリーングラス 滑川 法彦

雑貨販売から

5月から入職し、日々学ぶことが多く、時間が経つのが早く感じています。

前職では小売販売の仕事に従事し、障害者雇用で少し携わっておりました。辛い事でも一緒になって仕事をしてくれた事に、感謝と仕事の達成感を経験させて貰いました。そんな中、彼らの就労支援をされている方から「企業で仕事をしたいくても就職出来ない方や、就職しても直ぐに辞めてしまう障害者が多くいる」と、伺い衝撃を受けました。

その話を聞いてから、企業や障害者の方達の中に入って仕事が出来たいと気持ちになり、わかくさ会

に巡り会いました。

現在はゆうゆうに勤務しております。ゆうゆうでは、25名の利用者さんと共に働き、福祉の知識が全くない私にとって、毎日多くの経験をさせて頂いております。

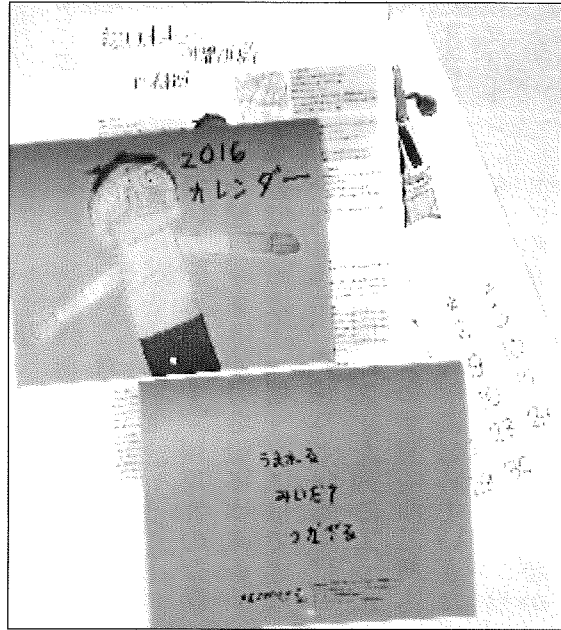
まだまだ、利用者さんや職員に迷惑を掛けていますが、ゆうゆうでは、どらやきの製造販売があり、どらやきこそ、自分の経験を大きく活かせる事であると思っております。他にも、創作活動で商品化された物品販売もあります。販売方法や接客の経験を利用者さんに伝えて行き、販売に興味を持って貰えるようにする事が私の目標となっております。

その為にも福祉の知識と経験が不足しているので、勉強・体験・経験を多くして、わかくさ会の利用者さんが製造・作成した商品も多くの方に提供し、利用者さんに喜び・興味を持って頂き、それが利用者さん自身のステップアップに繋がられるよう、取り組んで行きます。

ゆうゆう 太田 健一

戸田わかくさ会では、各事業所の利用者が描いた絵を用いて、カレンダーを製作しました！！

利用者の思いによって生まれる作品、それを支援者側が見いだし、地域や人へつなげていきたい。そういった思いから、戸田わかくさ会は、表現活動を通じて、生き生きとした表情で暮らせる場づくりを目指しています。



- ▼1冊 1,000円
- ▼カレンダーの種類
 - ・A3サイズ壁掛け（中とし）
 - ・はがきサイズ卓上横向き
- ▼受付
 - 注文書・電話・FAXによる注文を受け付けています。
- ▼引渡し
 - 平成27年10月中旬
- ▼引渡し場所
 - わかくさ・ゆうゆう
 - ・かがやき

実践交流会

実践交流会は、戸田市内の障害児・者施設同士、日頃の実践を事例として共有、各事業所で活かしていくことで、戸田市全体の福祉力向上を目的としています。

「福祉施設で働いていないけれど、興味があるなあ」という方も、ぜひお越しください。

- 日時 12月5日（土）
13:30～15:00
（受付13:00～）
- 場所 戸田市商工会館
3階 多目的室
- 講師 社会福祉法人 啓和会
桜井祐行氏
- テーマ 「幼児期から親なき後の暮らしを見据えた支援」
- 実践報告内容
 - ①「地域で暮らす発達障害児の支援」
 - ②「障害者の就労支援」
 - ③「グループホームでの生活」

（法人の運営する事業所）

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ

（ホームページはこちら）

<http://www.wakakusa-kai.com/>

【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会
〒335-0021 戸田市新曽1522-1
TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298

（編集後記）

10月より、新体制で作成いたしました。これからも『作業の歴史』を皆様にご提供いただければと思います。もっと読みやすい会報をお届け致しますので、ご期待ください。（W・O）

☆非常勤職員

募集中です☆

現在、法人各事業所では非常勤職員を募集中です。詳細は、各事業所、又は法人本部へご連絡下さい。☎432-8198（本部）